黒木賢一先生との出会いと思い出

鵜飼奈津子ほか

１．はじめに

鵜　飼　奈津子

私が黒木先生と初めて出会ったのは，2005年の晩夏，大阪で開催された日本心理臨床学会の懇親会の会場だった。当時，私はまだロンドンで暮らしており，一時帰国をして学会に参加していた。その際，共通の知人から紹介を受け，ご挨拶をさせていただいたことを鮮明に記憶している。もちろん，その時は，のちにこの黒木先生と同僚になり，大変なお世話になろうなどということは，夢にも思っていなかった。

その後，そろそろ日本に拠点を戻したいと考えるようになった私は，2007年の秋，本学の教員採用の公募に応募し，ロンドンから本学まで面接のためにやってきた。そこで再び，黒木先生とお目にかかることになったのである。面接での黒木先生は，ロンドンの臨床事情も含め，私自身の臨床感について，あの子どものように純真な，“興味津々”といった生き生きとした目で，熱心に聞いてくださったことが，今も鮮やかによみがえってくる。黒木先生は，常々，「志の高い臨床家を育てる」をモットーに教育に当たっておられだが，それは今も，本学の臨床教育に脈々と引き継がれている「伝統」である。この面接の場で，黒木先生はおそらく，私自身の臨床家としての「志」をお知りになりたかったのだろうと思うが，今，振り返ると，それをとてもうまく引き出していただいた面接だったと思う。

晴れて本学に採用していただくことが決まった私は，それから慌ただしく帰国の準備に取りかかった。そこには当然ながら，患者・クライエントであった多くの子どもたちやその家族との別れの作業も含まれており，痛みや後悔，迷いがなかったと言えば嘘になる。また，日本での“再適応”に対する不安もあった。そうした様々に入り乱れた複雑な思いを抱えて，2008年の春，私は本学に受け入れていただくことになった。

黒木先生は，大学院付属の心理臨床センター長を長らく務めておられたが，その中で，ぜひ，心理臨床センターで何か新しいことを始めてみてはどうかと提案をいただいた。そこで，私が真っ先に思いついたのが，イギリスの Under5 Counselling Service をモデルとしたシステムを心理臨床センターに導入することだった。これがまさに，現在にいたる「発達相談サービス」が生まれるきっかけであった。本学では，これを大学院の臨床教育と組み合わせることで，地域貢献はもとより，子どもと家族の相談に関するアセスメントとセラピーの基本を大学院生が学ぶというユニークなシステムを構築した。黒木先生は，

こうした新しい取り組みの提案に対して，何ら抵抗感を示すことなく受け入れ，実現に向けて動いてくださったのである。スタートからちょうど一まわり，12年が経過した今，このサービスは，心理臨床センターの看板の一つに成長し，本学の地域貢献の一翼を担うものになっていると自負している。黒木先生は，いわばこの発達相談サービスの生みの親であると言っても過言ではないのである。

黒木先生はまた，大学教員として教育に専念することはもとより，臨床家としての活動を継続すること　―“臨床家の身体”を保つこと―，そして，研究活動も同時にしっかり進めることを常に推奨されてもいた。私が2010年に最初の単著「子どもの精神分析的心理療法の基本」を上梓することができたのも，こうした黒木先生の後押しと励ましがあってのことである。黒木先生は，まさに，私の日本での再適応を常に支え，励ましてくださった，私にとってはかけがえのない恩師である。

黒木先生が他界されたことは，今も信じられない。退職の際には，「これからもいつも鵜飼さんの味方」だと応援の言葉をかけてくださった黒木先生に，先生がその創設に深く尽力された人間科学部を守りぬくとともに，今年度から「現代心理学コース」が「臨床心理学コース」として生まれ変わったことを直接お伝えできなかったことが心残りである。しかし，きっと天国から安堵と共に喜んでくださっていることと思う。

さて，黒木先生のことをこのように感じている元同僚の教員や教え子は，私一人に限るわけもなく，この度の「人間科学部特集号」に寄せて，多くのメッセージをいただいている。以下，紙数に限りがあるために，それぞれの思いをかなり凝縮していただくことにはなったが，まとめて紹介をさせていただきたい。

2．元同僚教員から

(1)「黒木先生を偲んで」

市川　　緑

黒木先生が，教員を募集しているから応募してみないか，力にはなれないけどと，声をかけてくださらなければ，私は大学には来ていません。当時病院小児科で心理相談を担当していました。黒木先生の主催される勉強会に参加しているだけの私に声をかけてくださったことがうれしくて応募することにしました。業績がたくさんあったわけでも学位を持っていたわけでもなかったのでまさか採用されるとは思いませんでした。

でも教員になって，若い元気な学生たちやまったく分野の異なる先生方と知り合いになれ，実り多い12年間でした。研究は肌に合いませんでしたが，論文執筆のプロセスでヒアリングさせていただいたイルカにかかわる人たちや小学校幼稚園の先生方との出会いも貴重な体験となりました。すべて黒木先生のお声かけのおかげです。

あちらでもたくさんの人に囲まれて弁舌をふるっておられることと思います。そのうち私も行きますのでどうぞよろしくお願いいたします。

(2)「黒木賢一先生を偲んで」

カウンセリング・ルーム輝　古宮　昇

「えっ！このかた，学会でも活躍している著名なかたですよ！」

驚いた私の声に，学部長が私のほうをパッと振り向きました。

あれは，私が大阪経済大学教養部に採用していただいたばかりの初夏の明るい日。そのころ本学の理事会で，「教養部を発展的に解消して人間科学部の立ち上げを目指す，その柱の一つとして心理学専攻を立ち上げる」，ということが決まっていました。その採用人事を進めていたのですが，最終候補者に断られたりして行き詰まっていました。そこで，就職したばかりの新入社員のような立場だった私は，学部長の「心理学教授の応募書類を見てくれませんか」という依頼で，学部長室で応募者全員の履歴書・業績書を見ていました。黒木賢一先生の応募書類を見つけてビックリしたのはそのときでした。私は大学生のときから，著名な黒木先生のご講演に行ったり宿泊型の研修に参加したりしていたので，存じ上げていました。ところが黒木先生は，私が本学に来る前におこなわれた書類選考で候補者から外されていたのです。

その後，黒木先生は採用面接で高く評価され，本学に来ていただくことになりました。黒木先生の着任と同時に，教養部を解消して人間科学部を設置することができました。黒木先生は教育熱心で学生にも人気でした。ゼミは多くの学生でにぎやかでした。黒木先生は人間科学部の教育と運営を軌道に乗せるにあたって，大きく貢献してくださいました。

その後，さまざまな困難を乗り越えて人間科学研究科大学院を立ち上げることができましたが，それは黒木先生がおられたからです。黒木先生は，カウンセラーという職業が今ほど世間に知られずずっとマイナーだったころから，開業心理臨床家として長年にわたって活躍しておられ，臨床心理士資格認定協会のトップとも太いパイプがありました。そのおかげで臨床心理士養成課程の大学院を設立することができました。

臨床心理士養成課程の附属施設である心理臨床センターに専任カウンセラーと数名の非常勤カウンセラーを置く，という原案は黒木先生のご意向で決まったものであり，その実現のため理事会と何度も交渉しました。初代専任カウンセラーの石野泉氏は心理臨床センターの立ち上げに欠かせない重要な貢献をしてくださいましたが，石野氏に白羽の矢を立てたのは黒木先生でした。心理臨床センター施設・設備の設計に当たっても，黒木先生は建築士さんと私と話し合いを重ね，今の施設が誕生しました。そもそも心理臨床センターという名称も黒木先生がつけられたものです。

黒木先生は，同じ臨床心理士である私に，専門分野においても多くのサポートをしてくださいました。サポートと挑戦もくださいましたが，そのおかげで私も少しは成長できました。私が本学を退職してカウンセラーとして開業したとき，大学院生を連れて花をもってきてくださり，お祝いの食事も一緒にしてくださったのも黒木先生でした。

黒木先生が亡くなられる数か月前，大病院でバッタリお会いしました。痩せて，表情もあまりよくありませんでした。黒木先生は急いでおられたのか簡単な挨拶をしただけで終わりましたが，あれがお会いする最後になりました。

今は天国で幸せに過ごしておられることでしょう。黒木先生のご冥福を心よりお祈りします。本当にありがとうございました。

３．教え子たちから

(1)「沖永良部のＤＮＡに誘われて」

青木　敬章（大学院３期生）

黒木先生，沖永良部に行ってきましたよ。

忌明け翌週の那覇港から与論島を経由した７時間あまりの船旅は穏やかで快適でした。神戸沖州会館の親切な管理人さんからルーツの字名まで教えてもらったのに，間抜けな私は一番の目的を果たせないまま旅を終えましたが，自然も人も酒も素晴らしい島でした。

西郷南洲の謫居を再現した格子牢を訪れ，この島にも流されたことを初めて知りました。島全体を一望できる大山の展望台では南国の景色に心を奪われました。フーチャから見た海に浮かぶ二重虹は，今でもしっかりとまぶたに焼きついています。

居酒屋のご主人に勧められた島の黒糖焼酎（をちみづ，はなとり，稲乃露）を地元のお客様とともに堪能し，深夜まで島のいろんなことを教わり，先生が「ＤＮＡがそうさせる」と度々口にされていたことが少し腑に落ちました。記念すべき奄美群島の本土復帰70周年の年に，呼んでいただきありがとうございました。

先生，また呼んでくださいね。その時も一緒に島焼酎が飲めますように……。　合掌

(2)「先生ありがとう！！」

コル・レーニョ株式会社　川原　未来（学部・大学院３期生）

黒木先生には，学部生の頃から大変お世話になりました。学部のゼミを決める時，友人と先生のゼミを見学し，先輩方の発表とゼミの雰囲気を感じ，友人と一緒に「絶対黒木ゼミに入りたいね！」と話し合ったのを覚えています。

黒木ゼミでは良く飲み会を開催しましたね。同期だけでなく，先輩方との交流ができるよう企画してくださり，とても楽しい時間を過ごせました。ゼミ合宿もとても楽しかった記憶があります。先生は飲み会の席にもよく参加してくれて，「一気飲みはあかんでー」と仰ってましたね。大学院では臨床家の師として，臨床の大切さ，そして実践の大切さを学びました。

瞼を閉じると当時の様子と先生の輝く笑顔が浮かびます。

できることならもっとお話ししたかった。

先生のおかげで，素晴らしい仲間に出会えたこと心より感謝申し上げます。

これからも繋いでくれた縁に感謝し，毎日を大切にそして，楽しくしっかりと歩んでいきたいと思います。

先生，お疲れ様でした。そして，ありがとうございました！！

(3)「いつも指針を示して下さった黒木先生」

谷町こどもセンター・関西心理センター
大原（辻内）咲子（学部・大学院3期生）

私は，学部のゼミから黒木先生にお世話になりました。人見知りで引っ込み思案だったため，こんな自分が心理士になれるのだろうかと悩んだ時，「そういうあなただからこそ，同じ悩みを持つ人の気持ちを誰よりも理解してあげられるじゃないですか」と，先生は仰ってくださいました。先生はいつも学生の個性や可能性を最大限に伸ばそうとしてくださっていたように思います。

そして，心理士としての姿勢や，心理臨床とはなんであるかということをたくさん教えて頂きました。

心理臨床の世界でやっていくことは，大変なことも多く，苦しかったり，心が折れそうになったりすることもありますが，「サバイブして行ってよー！」と先生が，いつも背中を押してくださったことを，これからも胸において，心理臨床の世界で生き残っていけるよう精進したいと思います。

黒木先生，本当にありがとうございました。

(4)「想い出されるのは，」

平安女学院大学　中谷　桂子（大学院3期生）

想い出されるのは，ケースカンファレンス……。黒木先生はいつも目を閉じて院生の発表に耳を傾けておられました。黒木先生が心理臨床家として「気」，「身体」，そして「無意識」を大切にされていたのは周知のことですが，他者の状態にとても敏感であられることに驚いたことがありました。有馬温泉での合宿の帰りの車でのこと，黒木先生は運転席からミラー越しにも関わらず，後ろの席にいた私が車酔いをしていたことに気づいて，声をかけてくださいました。ただ，思い返すと，私は黒木先生と多くの会話を交わしたわけではありません。しかし「どの領域に進みたいですか？」と問いを投げかけてくださったり，修士論文の副査として励ましの言葉をいただいたり，ケースについての心に残るコメントなど，要所で声をかけていただいたように思います。そのややゆっくりとした柔らかな声の響きが，今も想い出されます。黒木先生，ありがとうございました。そして，心よりご冥福をお祈りいたします。

(5)「黒木先生を偲ぶ」

大阪医療センター　西川　歩美（学部・大学院3期生）

黒木先生との出会いは，学部でのゼミでした。多様な学生に対して，自分たちの興味があることをとことん学んでいくようにと，一人ひとりの‘物語’を大切にしたご指導をされていたことが印象的でした。私もその一人でした。そして，大学院においても優しさと厳しさをもってご教示下さいました。

その中で，「僕は，その学生にとって少しだけ難しい課題を出す」と話されていた言葉

を思い出しました。困難に対して自ら考え解決していく過程は，学生として修士論文を書き終えるという目的だけでなく，主体性を持ち生きていくための教えも含まれていたように思います。

また，様々な場面で「臨床は面白い」という言葉もお聞きしました。学生の個別性や物語を大切にしつつ，より良いものを目指して関わっておられた先生のご姿勢は，どのような時も臨床家であったと感じています。

黒木賢一先生にご指導を賜りましたことに改めて感謝申し上げますとともに，ご冥福を心よりお祈りいたします。

(6)「黒木先生から教わったこと」

大阪経済大学心理臨床センター　堀内　瞳（学部・大学院3期生）

黒木賢一先生と初めて一対一でお話したのは，学部生の時に臨床心理士になりたいという相談をしに行った時でした。ほとんど何もわかっていない私に，学部生の間にどういうことをしていくのがいいのかなど丁寧に指導していただきました。

その後，黒木ゼミに入ることになり，ゼミでは私を含め5人の同期が大学院進学を希望していました。その時から，黒木先生は仲間が大事で，みんなで協力してやっていくんだといことをよく話してくれていました。

大学院では，私は別の先生のゼミになり，オリエンテーションも黒木先生とは違うものになりましたが，オリエンテーションを超えて，臨床とはどういうものなのか，何を大事にしていくのがいいのかなど，熱心に指導していただきました。

黒木先生はよく，「臨床は10年経ってからがスタートライン」と言われていましたが，私は現在臨床を始めて10数年が経ちました。これからも黒木先生からの教えを胸に，臨床に励んでいきたいと思います。

(7)「黒木賢一先生への感謝と思い出」

一般社団法人 大阪メンタルサポートオフィス 代表理事

佐野　正剛（大学院5期生）

黒木先生への思い出を巡らせた時，邂逅というものは，これほど大きくその後の人生に影響を与えるものかと改めて思いました。

2010年11月17日の朝刊で英国の臨床心理士と認知行動療法の記事を見て，第2の人生を突きつけられたような衝撃を受け，当日朝から憑かれたように調べまくり，資格を取るためにはまず大学院修了が条件と知りました。その日の夕方には黒木先生のホームページに辿り着き，大学院受験に関する質問をさせていただきました。見知らぬ者からのメールにも関わらず，先生からご丁寧な返信をいただき，翌日には受験を決意していました。

4月に初めて大学院でお会いできた日のことは今でも鮮明に思い出されます。その後，黒木先生から丁寧かつ人間味あふれるご指導を受けたことは，私にとって臨床心理士の道を歩む上で非常に重要な礎となりました。

先生とは年齢も近いこともあり，ご指導を受けるだけでなく，一献を酌み交わし人生を語り合う機会も多くいただき，大学院修了後もカウンセリングオフィスの開業にあたって心強いご支持をいただきました。

振り返れば，大学院を退職されてからも含めほぼ13年間心温まる交流をさせていただきました。今の私があるのも黒木先生との出会いがあり，多大なご支援とご指導の賜物だと心から感謝しております。

黒木先生との早すぎるお別れは残念でなりませんが，先生への感謝の念は生涯忘れることはありません。謹んで黒木先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(8)「黒木先生を偲ぶ」

大阪メンタルサポートオフィス　谷口　千枝（大学院５期生）

黒木先生との出会いは20年ほど前にさかのぼる。先生はＫカウンセリングセンターの講師でいらした。担当されていたのは「トランスパーソナル心理学」である。当時カウンセリングに関心を寄せる人は多く，まさに老若男女200名ほどが会場を埋め熱気に満ちていた。それ以上に先生の講義も伝えたいことが山ほどあるといった活気あふれる講義であった。何より先生が楽しそうになさっていたことが印象に残っている。

それから数年後，大経大の大学院で先生に教わることになった。同期は４人，授業は先生の研究室で行われた。時にコーヒーをごちそうになりながら和やかで楽しいひとときであった。教材は多岐にわたりさまざまな面から人間をとらえ不可思議な力にも触れる機会となった。神田橋先生の著作からの「ファントム，焼酎風呂，たましいのテーマ，いのちのプロセスに戻ること」など。臨床能力を高める基本を教えていただいた。

黒木先生から人の持つ可能性を心から信じることを学んだと改めて感じる次第である。

(9)「ファントムとともに」

滋賀県スクールカウンセラー　山名　利枝（大学院５期生）

黒木先生。大学院時代は黒木節とも言える，熱くユニークなご指導を本当にありがとうございました。私たち５期生は当時，平均年齢が46歳くらいで黒木先生の授業でもみな積極的に発言し，特に神田橋條治先生の『臨床能力を育てる（2007)』の中に出てきた“ファントム”については「こんな感覚かもしれないし，もっと別の何かかもしれない」とまるで雲を掴むような思いで議論したり，擬人化してイラストを描いたりして何とか理解しようとしていたことを覚えています。あれから十数年，近頃やっと私の小さなファントムがチラつくようになり，ファントムの出現とともにいつも黒木先生のことを思い出しています。

(10)「黒木先生への追悼メッセージ」

八尾市役所　今吉　賢太（学部・大学院６期生）

私は，現在，市役所で心理職として対人援助の仕事をしております。黒木先生には，大

学院で在籍している際にゼミや授業で臨床心理学の基礎を教えていただきました。黒木先生は，特定の学派を私に推奨することはありませんでしたが，「人と人が出会う」「心と身体の調和」の大切さについてはよく語っておられました。授業で太極拳を教えていただいたり，合気道の道場を紹介してもらい通ったのは，良い思い出です。現在の自分の対人援助観の基礎になったのは，黒木先生が授業で扱った精神療法の大家である神田橋條治先生の著書である「対話精神療法の初心者への手引き」という本です。この著書は，今でも何度も読み返すほど，自身の教科書となっています。授業で，黒木先生と同期とこの本の内容をじっくり検討した時間は，青春を謳歌していた時だったと思います。懐深くも臨床に熱心な方でした。本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

(11)「黒木先生を偲んで」

宇山　美帆（大学院6期生）

私は自分の感じたことや考え，想像したことを言葉にすることが苦手で，纏まらないことも多々あるのですが，黒木先生はそんな私を広い心で受入れて下さり，ゼミではイメージや連想を大事に扱い，共有したり，刺激し合ったりする中で理解を深めていくとことを教えて頂きました。非言語の世界の面白さ，興味深さが，自身の臨床にも繋がっていると思います。

また，私事ながら，昨年に命を授かり，夏頃に赤ちゃんを迎えました。赤ちゃんは，お母さんのお腹に宿る前に，空から見ているとか，この世に産まれて来る以前の記憶があるとかいう話を聞くことがあります。どんな記憶があるのか，今から喋るのを楽しみにしているのですが，どこかで先生とすれ違っているのかなと思い，命の繋がりやご縁を感じずにはいられません。大変お世話になり，ありがとうございました。

(12)「先生のあたたかな眼差しを支えに」

大阪経済大学心理臨床センター　中澤　鮎美（学部・大学院6期生）

黒木先生，少人数の学部の授業では，先生の研究室で本を片手に，ときにはお菓子を食べながら，興味のある話題をそれぞれ出し合って話しましたね。私たち学生が話す話題にも目をキラキラさせながら，ノートに熱心にメモを取られていた先生の姿が今も目に浮かびます。

そう思い返してみると，黒木先生には学部生時代から，あたたかく，広いこころで見守ってもらっていたのです。修士論文の発表後，「まだまだやることがあるなぁ」と朗らかにおっしゃいました。修了後，研修員として残ったときには，「あなたが頑張るんだ。引っ張っていくんだよ」と力強い激励をもらいました。そして，現職の採用面接，「5年でこんなにも成長するんだなぁ」と目を細めて微笑みながらお話ししてくださいました。とても嬉しく思ったのが，ついこの間のことです。

節目節目に黒木先生と出会い，声をかけていただきました。そして，小さなからだなのに，大きく見える背中にいつも励まされ，臨床家としての道標になっていてくださいまし

た。願わくはもっと黒木先生とお話ししたかった。先生のあたたかなご指導に感謝するとともに，心よりご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

(13)「黒木賢一先生を偲んで」

くるみ心理オフィス　二宮　一美（大学院 6 期生）

2010年初夏，大学院受験について相談すべく，心理センターの黒木先生のお部屋を訪ねました。そのときの先生の力強い励ましの言葉が，現在の私を導いてくださったことを，心より感謝しています。先生との出会いはそれからずっとさかのぼります。カリフォルニア大学ヘイワード校から帰国された直後に，新しく日本に持ち帰られた人間性心理学の講義をお聞きしたのです。当時黒木先生は30代半ばでいらしたと思います。その笑顔とエネルギッシュな講義に圧倒された記憶があります。その後，先生の初めてのご著書「自分発見〜隠された私に出会う本」を愛読し，ワークショップに参加したことが思い出されます。先生が恩師とされる目幸黙僊先生と並んで講義をされていたお姿や，大学院での授業の様子など，先生の思い出はつきません。ただ，もう少し先生と「老いや死」について語りえある時間が欲しかったという悔いは残っています。先生，ありがとうございました。

(14)「先生の言葉を胸に」

大阪大学大学院 医学系研究科 臨床遺伝子治療学寄附講座
田中（松浦）紗織（大学院 6 期生）

先生の突然の訃報に接しまして，大変な驚きと悲しみを感じております。

先生とは住まいが近く，数年前には書店でばったりとお会いすることがありました。

当時，育児のためすっかり心理職から離れており，再び臨床の場に戻りたいものの自信がないと弱音をはいていた私。そんな私に先生は「子育てで得た経験は必ず臨床に役立つ！間違いない！自分のタイミングで，“よし，今だ！”と思った時に臨床に戻れば良い。頑張りなさい！」と穏やかな笑顔で，しかし，こちらの心に響く力強さをもって仰ってくださいました。

昨年より，わずかながら心理のお仕事を再開しました。先生へのこのメッセージも実は今，通勤しながら綴っております。復帰からしばし経った今でも不安と緊張の日々ですが，改めてあの日の先生の穏やかさと力強さに勇気づけられています。

たくさんのご指導と温かい思い出を有難うございました。先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

(15)「黒木賢一先生を偲んで」

丹比荘病院　小田　純也（大学院 7 期生）

今年の夏に先生の訃報の知らせを受けてからもう 5 ヶ月が経ちますが，正直なところ，まだ実感がありません。でも，今こうして先生への最後のメッセージを書きながら込み上げてくる感情や感覚を通して，自分の心にぽっかりと穴が空いていたんだと気づかされて

います。大切な恩師を失ったことを認めまいと，私の心が一生懸命にがんばってくれていたのだと思います。

黒木先生との出会いは，2012年に私が大学院に入学した頃になりますが，心理臨床の世界の右も左もわからない私を，いろいろな世界に連れて行っていただき，いろいろな人とのご縁を繋いでいただいたことがつい昨日のことのように思い出されます。学会に始まり，研究会やSV，出版社，料亭から中華街まで，本当に多くの世界を味わわせていただきました。失礼を承知の上で言いますと，「小さいけど大きな背中だなぁ」といつも思いながら先生の後ろをついて行っていました。当時の私にとってはすべてが新鮮で，とても充実した日々でした。こうして振り返ってみると，私の周りには，今もなお，先生に繋いでいただいたたくさんのご縁が生きており，驚きとともに感謝の気持ちで一杯です。

黒木先生と過ごした時間の中で学んだことは，今でもよく思い出します。とくに，“どのようにsurviveするか”という言葉は私の中にとても印象強く残っています。まだまだ心理臨床家としては未熟ですが，実習生を受け入れ指導する立場になった今，そして世間では公認心理師という資格ができた今，“めまぐるしく変化する時代の中で心理臨床家としてどのようにsurviveしていくか”ということを日々考えます。それはまるで先生に問いかけられているようでもあり，同時に，私の中に黒木先生がいることを感じます。そうして改めて，「心理臨床というのは受け継がれていくものなんだなぁ」としみじみと感じるとともに，それこそが先生から教わったものだと噛み締めています。そこには黒木先生自身が先達から受け継いだものも脈々と流れていることと思います。そうして黒木先生から受け継がれたものを，十分に味わいながらしっかりと自分のものとし，そしてまた受け継いでいけるように，日頃から地道な努力を積み重ねていきたいと思います。

黒木先生のこれまでのお導きに心より感謝し，心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（16）「黒木　賢一　先生」

丹比荘病院　石郷岡　愛（学部・大学院8期生）

黒木先生との出会いは私が学部生のときで，ゼミでお世話になったことが始まりです。当時，進学と就職で迷いながら卒業論文にも悩む私を指導してくださいました。おかげで無事に卒業し，臨床心理士としての道を進む決意ができました。

もちろん，大学院でも大変お世話になりました。

先生は我々学生に対して，静かに見守ってくださっていたように思います。そして時々，「ここが成長したね」と声をかけてくださることがあり，見てくださっているのだなと，嬉しく感じると共に背筋が伸びる思いでいました。

先生の膨大な知識と経験則から来るお言葉は，未だ私には掴めきれていないことが沢山あります。ですが，先生の教えを胸に刻んでこれからも臨床を続けていきたいと思います。黒木先生，ありがとうございました。またいろいろなことを，教えてください。

(17)「黒木先生からいただいた励ましの言葉」

大阪経済大学心理臨床センター　塩見美千子（大学院 9 期生）

私が黒木先生とお話する機会は授業やカンファレンス以外それほど多くはなかったのですが，男女共同参画センターなどで行っている男性相談に黒木先生が関わっておられたこともあり，女性相談をやってきた，フェミニストカウンセリング出身の私に，大学院入学当時，親しく声をかけてくださったことが忘れられません。年もとっており，場違いなところに来てしまったのではないかという思いを抱えながら大学院生活を始めた私でしたが，大変心強く感じました。

その後もカンファレンスでは，私を含め発表者の学生に厳しくも温かい言葉をかけてくださり，失敗を恐れず実践を積むことができました。修論の発表の折，私は先生方の厳しい質問にうまく答えられず落ち込んでおりましたが，翌日先生が「よかったよ」と声をかけてくださったことも，私の記憶に鮮明に残っております。ひとりひとりの学生を観察し，的確に言葉をかけてくださっていたのだと今更ながら気づき，感謝してもしきれません。ユーモアに溢れお元気だった先生がお亡くなりになられたことが，今も信じられません。黒木先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(18)「臨床家　黒木先生」

兵庫県立神出学園　上村　哲矢（大学院11期生）

「君たちがこの時代のひとりの臨床家としてどう survive していくか」

大学院時代，先生がよく仰っていた言葉だった。この言葉については，臨床家としてどの分野で活躍するか，という職業選択の１つくらいにしか当時の僕は考えていなかった。今はこの言葉の重みが少しわかるようになった。先生が大学院の講義で話していたことは，大学院を修了してからの方がより身体に沁みてくる。それはひとえに先生が臨床家だったからなんだなと話していた言葉を思い出すたび何度も思う。

そんな先生が去年この世を去った。去った後は，辛く悲しかったが，夢でまた先生とお逢いできたらいいなとも思っていた。すると，ご逝去されてから４ヶ月後に僕はこんな夢を見た。

私は職場にいる。棚からファイルを取ろうとするが，取らずに自分の席へ戻ろうとした時に黒木先生と肩がぶつかってしまう。私は「すいません，肩当たっちゃいましたよね」というと，黒木先生は「そうやで」と怒った表情で言われて，私は反省した。

先生に夢で会えたのが嬉しいと思いつつ，現世で先生に怒られたのはゼミの時間に遅刻した１回きりだったので，なぜ夢の先生が怒っていたのか不思議に思っていた。その時，大学院を修了した時にもらったアルバムに黒木先生が書いてくださった一言を思い出した。『これからはクライエントが先生です。』

「もっと臨床頑張んなさい……」，そう先生に激励されたような気がした。

先生の背中は遠すぎて全然見えない。それでも，先生から教わったことを頼りに，自分の臨床を探しながら，クライエントと共に survive していこうと思う。

黒木先生，現世ではいっぱいお世話になりました。そちらでは，楽しく過ごされてますか？また夢で逢えることを楽しみしてます。

(19)「繋がるということ」

浪速区役所 子育て支援室　深見　博輝（学部・大学院11期生）

私が黒木先生と関われた時間は，大学院の授業が中心でした。講義やカンファレンスの中では，多くのことをご教授いただきました。身体感覚に特に乏しい私は，先生の仰る内容に悩みながら，日々の課題に取り組んでいたことを今でも覚えています。

そんな中，黒木先生にお世話になったことは，M1の冬の時期，体調不良が続いていた私に，「縁を切らずに繋ぎ続ければ得られるモノ」を黒木先生が教えてくださったことです。当時の私は，授業外でも話す機会がある先生たちには，プライベートな相談をしてはいけないと考えていました。そのとき，授業以外で話す機会が少なかった黒木先生に話を聞いてほしいと思い，木曜日の5時限目，黒木先生の講義の後に先生のゼミ室を訪ねたことがありました。黒木先生は突然の訪問にもかかわらず，時間を作ってくださいました。思い返すと，1対1で黒木先生とゆっくりと話すことができた場面は，その時だけだったように思います。

その後の日々では，流れに対する感じ方が少しずつ変化していくように感じました。縁の大切さを教えてくださった黒木先生には本当に感謝しています。簡単ではございますが，気持ちを綴らせていただきます。

(20)「黒木先生に今伝えたいこと」

高島市役所 子ども家庭相談課　横田　侑佳（大学院11期生）

初めてお会いした時，私の話を興味を持って聞いてくれる優しい先生だなあと思いました。数年前，黒木先生と神田橋先生の本を読み合わせしたことを思い出します。当時は深く考えることなく本を読んでおりましたが，大学院を離れ，就職し，再び読み返す機会があり，ふっと当時の状況が蘇りました。院生時代の空間に呼び戻されたような感覚でした。あの特別な空気感と空間は忘れられません。

今でも黒木先生の言葉の端々が私の心の中に残っています。それは私に勇気を与え，背中を押し，新たな視点をくれる存在です。これからもふと先生の言葉を思い出すと思います。心に留めながら臨床に邁進したいと思います。

(21)「黒木先生へのメッセージ」

㈱クリンミル 発達支援教室 わかくさ南武庫之荘

劉　宇軒（学部・大学院14期生）

何回も書いて，何回も消して，自分の気持ちを完全に伝えることができないです。

日本に留学して，そして大阪経済大学で黒木先生と出会ったことが本当に嬉しいことです！黒木先生と最後の約束を必ず実現します！

(22)「我が人生の師，黒木先生」

西川株式会社　金村　健太（学部・黒木ゼミ生）

黒木先生とは学生時代に普段のゼミでの授業以外に私が教育実習で向かった母校先や，ラグビー部活動で怪我を負い，入院した際でも暖かいお言葉を頂きました。

いつも大学では「金村くん」と優しい笑顔で微笑んでお声を掛けて頂けた事を今でも昨日の様に思い出します。

学生時代はゼミの仲間と一緒に黒木先生を囲んでお酒の席でも楽しい時間を過ごしたのが，良い思い出です。

数々の思い出の中でも，特に記憶に残っているのが，私が社会人10年目辺りを迎えた頃に科目等履修生として，大学と再びご縁があった際，黒木先生に連絡を取らせていただき，２人でお酒の席を作って頂いた事です。

当時は特に将来の事や，仕事のことで非常に悩みが強い時期でした。

ここでは割愛させて頂きますが，その時に先生に頂いた心温まるメッセージは忘れない様に今でも日記に書き記しています。

私の宝物です。

その時に撮影した黒木先生と私のツーショットを見ると，今でも黒木先生に「金村くん！大丈夫や！」と励まされている様に感じます。

私の人生の師匠です。

黒木先生に堂々と胸を張って良い報告が出来るように，これからの人生を楽しんで生きていきます。

先生，本当にありがとうございました！

(23)「人生のお手本でした」

永大産業株式会社　北川　貴司（学部・黒木ゼミ生）

基礎ゼミ時代からのお付き合いですが心理学の勉強というよりも『社会人としてどう生きるか？』という事を教えて頂けたと思います。思い返せば基礎ゼミ最初の課題は『自分の好きなものをみんなの前でプレゼンする』という内容でした。扱う課題や質は違いますが社会人の提案プレゼンに近しいものはありますね……。

それとゼミでの発表や授業よりも黒木先生の口癖だった『Survive しなさい』という言葉が凄く心に残っています。最初はそこまで言葉の意味を理解出来ていなかったのですが悩みや大きな壁，困難な状況に遭遇した際にこの言葉で救われた事が多々ありました。お陰で社会の荒波に揉まれながらも何とか Survive しています。卒業してから15年程経過しましたが，もっと黒木先生から色々な事を学ばせて頂きたかったという気持ちで一杯です。ただ同時に先生の事なのできっと次のステップに進まれたのだろうなという気持ちもあります。少し不謹慎ではありますが，いつものような屈託の無い笑顔で『北川くん，極楽浄土は研究が捗るよ』みたいな事を化けて言いそうだな……なんて思いもあります。まだまだ感謝の言葉や思い出は尽きませんが本当に今まで有難うございました。先生に褒めて頂

けるようにこれからもしっかり Survive していきます。

４．おわりに

こうして寄稿していただいた元同僚の先生方や卒業生のほかにも，黒木先生への思いを抱いている人は本当に多いと思う。最後に，一同を代表して，改めて黒木先生への心からの謝意を込めて，ご冥福をお祈りしたい。